雄氏はタイワンミヤマトベラの種子を西表島で発見して送って下さった。東京大学総合研究資料館助手立石庸一氏は Java で *E. horsfieldii* を採集し，生品のまま持ち帰って下さった。両氏に心からお礼申し上げる。

□ 1) C. van den Hoek: **Algen.** I-X+481 pp. 1978. Georg Thieme Verlag, Stuttgart. (国内価格 約3700円).

2) H.C. Bold & M.J. Wynne: **Introduction to the Algae.** i-xiv+706 pp. Printice-Hall, Inc., Englewood Cliffs, New Jersey. 1978. (国内価格 約7000円).

3) F.R. Trainor: **Introductory Phycology.** i-xvi+525 pp. John Wiley & Sons, New York. (国内価格 約5300円).

昨年（1978年）は藻類の教科書が三冊でた。(1) はオランダの van den Hoek 教授の執筆になるもので（H.M. Jahns が一部分担執筆），最近いちじるしい進展を見た藻類の微細構造と，培養による生殖・生活環の知見が，門，綱，目の階級ごとによくまとめられている点に特色がある。大学の講義原稿がもとになっている由で，形質の記述や挿図に工夫がこらされ，また引用文献数は644に及び，ポケット版シリーズの一つとはいえ，なかなかの力作である。(2) は副題が“構造と生殖”とある。(1) と同じように，門，綱，目について，体構造と生殖の最近の知見が解説されるが，さらに代表的な属を多数とりあげ，検索を与え，それぞれに最近の研究成果を簡潔に紹介・論議している点に特色がある。引用文献数は約2,400に及び，専門家にも便利な本である。(3)は(1)と(2) が分類を主体に記述しているのに対し，藻類を初心者に理解させ興味を持たせるために書かれた入門書で，従って内容は包括的で，文章も平易で，文献も主要なものをあげるに留まる。

三つの書で扱われた分類系を比較すると，門—綱の数はそれぞれ，(1) 9—15, (2) 9—14, (3) 5—13 である。(1) で Heterokontophyta, Haptophyta 及び Eustigmatophyta の門の名称が用いられ，Chlorophyta は維管束植物も包含するが，(2) では藻類の門の階級ということで，接尾語 -phycophyta をつけるさきの Papenfuss (1946) の案が採用されている。しかし，藍色植物と車軸植物にはそれぞれ Cyanochloronta と Charophyta の名称が用いられる。最後の二つは著者の一人 Bold 教授の年来の見解でもある。　　（千原光雄）

□乙益正隆：**球磨の植物民俗誌** 204頁，1978年11月，地球社，2800円．熊本県南部の球磨地方の植物に関しての民俗を集めたもの。目次でみると約120程が植物の種を単位にびっしりとつまっている。近年急速に古い民俗が滅びて行くので，これはよい記録である。まことに沢山の植物名とその方言とが充満しているのだから，Index がついているとよかった。　　（前川文夫）